

SX シンポジウム 2024 日米スペシャルセッションの開催について

2024 年 5 月 24 日
経済産業政策局 企業会計室

5月24日(金曜日)、経済産業省は、米国商務省(DOC)との共催で、SX シンポジウムのプログラムの1つとして、「日米スペシャルセッション」を開催しました。本パネルディスカッションは、2021年11月に設立された「日米商務・産業パートナーシップ(JUCIP)」に基づいて開催されたもので、2022年11月に行われた「日米 ESG ラウンドテーブル」のフォローアップとしての位置づけとして開催されたものです。

本パネルディスカッションには、米国商務省のモデレーターのもと、日米双方の企業、投資家がそれぞれ2名ずつ出席しました。会場には日米両国の産業界、機関投資家、学界、政府関係者等が出席しました。

冒頭、在日米国大使館 商務担当公使であるアラン・ターリー氏から開会の挨拶が行われました。続くパネルディスカッションでは、日米双方における ESG 投資やサステナビリティ戦略について、企業・投資家それぞれの立場から現状の評価、今後課題や展望について議論が行われたほか、SX の実践に向けた取組みの重要性や企業価値向上へ向けた戦略について、活発な議論が行われました。



開会挨拶の様子: 在日米国大使館アラン・ターリー商務公使



パネルディスカッションの様子

手前から順: パトリック・ジメット氏(米国商務省)、井垣勉氏(オムロン)、メラニー・ナカガワ氏(マイクロソフト)、松原稔氏(りそなアセットマネジメント)、島田知実氏(J.P.モルガン・アセット・マネジメント)

2024 SX Symposium U.S.-Japan Special Session Panel

2024 SX Symposium

U.S.-Japan Special Session Panel – “ESG Investment and Sustainable Corporate Value Creation” Summary

On Friday, May 24, 2024, the Ministry of Economy, Trade and Industry (METI) of Japan held a Sustainability Transformation (SX) Symposium in Tokyo. As part of the SX Symposium, and under the auspices of the Japan-U.S. Commercial and Industrial Partnership’s (JUCIP) ESG workstream, the U.S. Department of Commerce (DOC) and METI co-hosted a U.S.-Japan Special Session Panel entitled “ESG Investment and Sustainable Corporate Value Creation”. Established in 2021, JUCIP is an interministerial cooperative agreement between DOC and METI and May’s panel was a follow-up to a JUCIP virtual ESG roundtable held in November 2022.

Alan Turley, Minister Counselor for Commercial Affairs, U.S. Embassy in Tokyo, provided opening remarks. The four panelists included industry representatives and institutional investors from the United States and Japan. The U.S. panelists featured Melanie Nakagawa, Chief Sustainability Officer, Microsoft; and Tomomi Shimada, Lead Sustainable Investing Strategist for APAC, J.P. Morgan Asset Management. The Japanese panelists featured Tsutomu Igaki, Managing Executive Officer Senior General Manager, Global Corporate Communications & Engagement HQ and Sustainability Executive, OMRON Corporation; and Minoru Matsubara, Chief Sustainability Officer, Responsible Investment Department, Resona Asset Management. The panel was moderated by Patrick Zimet, Team Lead, Risk Insurance, and Professional Services, U.S. Department of Commerce. The audience included representatives of U.S. and Japanese companies, institutional investors, academia, civil society, and government.

The panel focused on the intersection of private sector sustainability strategies, ESG investment, and long-term corporate value creation, and how U.S. and Japanese companies and investors are evaluating the opportunities and challenges in this space in both countries and around the world. The corporate panelists discussed how and why companies are deploying sustainability strategies, the operational and business decisions involved, and the roles of sustainability frameworks, technology, and data in order to create corporate value. The investor panelists provided perspectives on how these strategies help manage risk, generate business growth and shareholder returns, and attract investment. They also discussed the importance of balancing short- and long-term interests, which requires both forecasting and backcasting and is accomplished by listening to diverse stakeholders and capturing changes in business. In addition, as proposed in the Guidance for Collaborative Value Creation 2.0, it is crucial that a company defines its values, applies them to its long-term vision and implementation strategies, and executes them in practicing SX.

SX シンポジウム 2024
日米スペシャルセッション「ESG 投資と持続的な企業価値創造」
概要

2024年5月24日(金)、経済産業省は東京でサステナビリティ・トランスフォーメーション(SX)シンポジウムを開催した。SXシンポジウムの一環として、また、「日米商務・産業パートナーシップ(JUCIP)」に基づいたESGに関する取組みとして、米国商務省(DOC)と経済産業省は「ESG投資と持続的な企業価値創造」と題する日米スペシャルセッションとしてパネルディスカッションを共催した。2021年に設立されたJUCIPは米国商務省と経済産業省の省庁間協力協定であり、今回のパネルディスカッションは、2022年11月に開催された日米ESGラウンドテーブルのフォローアップとして行われた。

開会の挨拶は、在日米国大使館 商務担当公使であるアラン・ターリー氏が行った。パネリストは日米の企業や機関投資家4名であった。米国側のパネリストとしては、マイクロソフト最高サステナビリティ責任者であるメラニー・ナカガワ氏と、J.P.モルガン・アセット・マネジメント サステナブル・インベスティング・チームストラテジストである島田知実氏が登壇した。日本側のパネリストとしては、オムロン執行役員常務グローバルコーポレートコミュニケーション&エンゲージメント本部長 兼 サステナビリティ推進担当である井垣勉氏と、りそなアセットマネジメント責任投資部チーフ・サステナビリティ・オフィサーである松原稔氏が登壇した。パネルディスカッションのモデレーターは、米国商務省ファイナンスアンドプロフェッショナルサービス オフィスリスク・保険・プロフェッショナルサービスチームリーダーであるパトリック・ジメット氏が務めた。会場には、日米の企業、機関投資家、学界、非営利団体、政府関係者が集まった。

パネルディスカッションでは、民間セクターのサステナビリティ戦略、ESG投資、長期的な企業価値創造に関して、日米両国の企業や投資家がこの分野における機会や課題をどのように評価しているかについて焦点が当てられた。企業側のパネリストは、企業のサステナビリティ戦略の策定方法や戦略策定の背景、企業価値創造に向けたオペレーションや意思決定、サステナビリティの枠組み、テクノロジー、データの役割について議論を行った。投資家側のパネリストは、サステナビリティ戦略が、リスク管理や事業成長、株主還元、投資プロセスにどのように役立つかについて見解を述べた。また、短期的な利益と長期的な利益のバランスをとることの重要性についても議論が行われた。こうしたバランスを取るためには、フォアキャストとバックキャストの両方の視点が必要であり、多様なステークホルダーの声を聞きながら、ビジネスの変化を捉えることが必要である。また、「価値協創ガイダンス2.0」で掲げているように、SXの実践において、特に企業自らが価値観を設定し、価値観に基づく長期的なビジョンや実行戦略を整え、実践に繋げることが重要である。